

消防トピックス

魅力ある明るい消防団

神奈川県横浜市西消防団

1 はじめに

西消防団は、明治45年の消防組設置令の公布とともに戸部消防組として発足し、昭和14年警防団令の公布により消防組は警防団に統合されました。その後、昭和22年に消防組織法が制定され、これに伴って横浜市消防団条例が公布され、西消防団を含む13消防団が横浜市に誕生しました。

現在の西消防団は1本部・3分団230人で構成され、定数100%を確保しています。そのうち、女性消防団員は3割を占めていて、昼夜火災・風水害・地震などが発生したときの災害対応と通常時における地域での防火・防災・応急手当指導・災害などに備えた訓練・資機材点検を実施しています。



「左手前の防火着装した女性消防団員と消防隊員」

2 横浜市西区の紹介

私たちの管轄する横浜市西区は、横浜市18区の中で面積が約7平方キロメートルと最も小さく、人口も10万人弱と最も少ない区ですが、JRをはじめ鉄道会社5社の乗り入れる県内最多の1日平均約228万人が利用する横浜駅を中心とし

て、東には横浜港に面したみなとみらい地区などの商業地域と古くからの繁華街や昔ながらの下町風情を残した木造住宅密集地が広がり、高低差も非常に大きく、西に進むにつれ急傾斜地域や道路狭隘、坂道、階段が多くなっていきます。

3 魅力ある消防団をアピールした入団促進活動

(1) 取組の背景

昨年度まで右肩下がりですべて団員数が減少してきて、さらに平成23年度に団員の定年制が実施されたこともあり、団員数減少は危機的な状況でした。そのため、西消防署では24年度の事業方針の一つに、団員充足率90%以上を目標として掲げ、西消防団と連携し団員確保に向けて積極的な活動を実施することとなりました。

(2) 取組方法

向こうから来るのを待つのではなく、こち



「みなとみらいのショッピングモールステージで、消防団部隊（左右で活動しているのが女性消防団員）が救助救出活動の演技を披露」



らから積極的に向いて団員の募集を行うスタイルで実施しました。

区内の連合自治会・町内会への消防団実態の説明や集客施設で行われるイベントへの参加を団員と署員が一緒に行いました。

区内に主要な事業所があり団員募集に協力していただける企業には直接説明に伺うといったことも行いました。

また、募集活動にあたっては、「女性団員数が3割を占め、女性の活動が盛んな消防団」といったことも積極的にアピールしました。



「緊急走行訓練で、マイクを握る女性団員」

(3) 具体的な実施内容

各種イベント等へ積極的に参加し、火災予防広報と消防団募集を常に組み合わせて実施しました。



「商店街で敬礼をして、団員募集活動」

西区内には、横浜駅やみなとみらい地区など集客施設が多数あり、そういった場所で行われる防災イベントに参加し、来場者に消防団募集リーフレットの配布や消防団活動の紹介、消防車の乗車体験等、消防団に少しでも興味を持ってもらえるよう創意工夫をして募集活動を実施しました。

また、こういった募集活動では、消防職員・消防団員が作成技術を習得したペンシルバルーン風船の子どもたちへの配布や消防団活動写真パネルの展示を必ず行い、消防団の雰囲気を醸し出す工夫を行いました。



「消防団とは」「消防団活動写真パネルを真剣に見つめる親子連れ」

消防団員の皆さんも、自分の訓練活動時の写真が掲載されているので、自信を持って友人を誘うようになり、反対に知り合いが写真に写っていたので、入団したいという希望者も増えていきました。

西消防団には広報班があり、訓練や災害時の記録を取り、毎月行われる広報委員会で資料を持ち寄ってもらい、消防署のほうでホームページに掲載するといったことも行っています。実際に入団しているかたの中には、ホームページがきっかけになったというかたも多くいました。

西消防署の取組の一つとしても「広報プロジェクト」があり、西消防団の広報班と連携し、その中で西消防団の活動を新聞、テレビ等のマスコミ

にPRし、報道してもらおうといった取組も行いました。

実際に、市内初の男女混成下での女性分団長誕生や女子高校生団員誕生など話題に上る事案も多く、平成24年9月1日には伊勢山皇大神宮の宮司以下22名全員が入団し、その後多くのメディアに取り上げられ、広く消防団の存在をPRしました。

こういった活動の成果もあり、横浜市消防出初め式や消防フェア、九都県市合同防災訓練など西消防団が横浜市の代表として参加することも多く、常に横浜市消防団をけん引する存在としてアピールを実施しました。



「九都県市合同防災訓練では西消防団員がエンジンカッターで壁面を切断」

4 実施結果

以上のような活動を消防団、消防署が創意工夫して行ってきた結果、平成24年11月1日付け

で西消防団充足率は100%（団員数230人）を達成しました。横浜市で平成23年度実施された定年制による団員数の減少で、平成24年4月1日の段階では172名だったことを考えると、これらの活動の効果によって消防団協力事業所のかたがたの訓練・研修への積極的な参加が増え、他の事業所でも入団希望があり、現在入団待ちの状況となっています。



「新入団員教育の座学を受講しているサラリーマン・大学生・主婦・自営業の皆さん。（日曜日のため、家族みんなで参加しているかたもいます。）」

今回の活動で、当初の目標であった団員充足率90%を超える100%という結果が出ましたが、年度ごとに退団される団員のかたが出てくることを考えると、さらに募集活動を継続していく必要があります。充足率100%を一時的なものではなく、常に維持していくといったことが今後の重要な課題となります。

我々、消防署・消防団は地域の安全・安心を守るため、大規模災害に対応する減災を掲げて日々訓練に励んでいます。さらに、近隣消防団と合同訓練も行うようになり、地域密着の都市型消防団としてこれからも横浜に来場する人や、地域に居る人の安全快適な暮らしを守り、**魅力ある未来の消防団を消防署と共に目指します。**